

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立富士小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A, 理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B, 理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

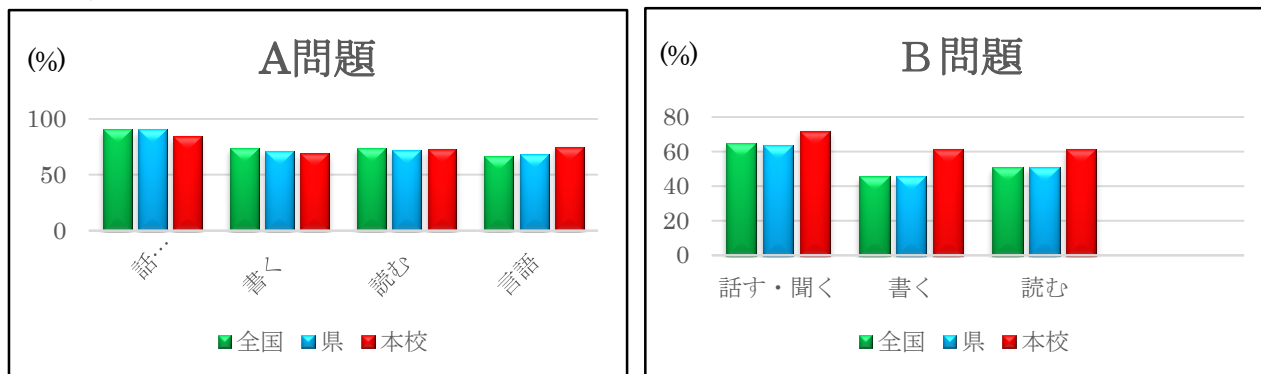
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学, 理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



B問題（活用）では、全国平均を大きく上回りました。A問題では平均を上回ったものの、領域別に見ると「話す・聞くこと」で6ポイント程（1ポイント＝1%：以下同様）、「書くこと」「読むこと」で4ポイント程、全国平均を下回っています。

(2) 成果と課題

【話すこと・聞くこと】

・A問題の「図書館への行き方の説明として適切なものを選択する」という問題で、正答率が全国平均を6ポイント程下回りました。相手や目的に応じ、自分が伝えたことについて、事例を挙げながら筋道を立てて話すことができるように普段から意識させたいと考えます。

【書くこと】

・A問題の「物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する」という問題で、正答率が全国平均を4ポイント程下回りました。自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えられるような指導をしていきます。

【読むこと】

・B問題における「山下さんはどのようなことを知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択するの問題で、全国正答率49.4%に対して本校38.5%でした。目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読めるように指導をしていきます。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

・ほとんどの問題で、正答率が全国平均を大きく上回っていますが、主語と述語の関係を正しくとらえることが課題となりました。「スキルタイム」や「学びタイム」における指導を今後も継続していきます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

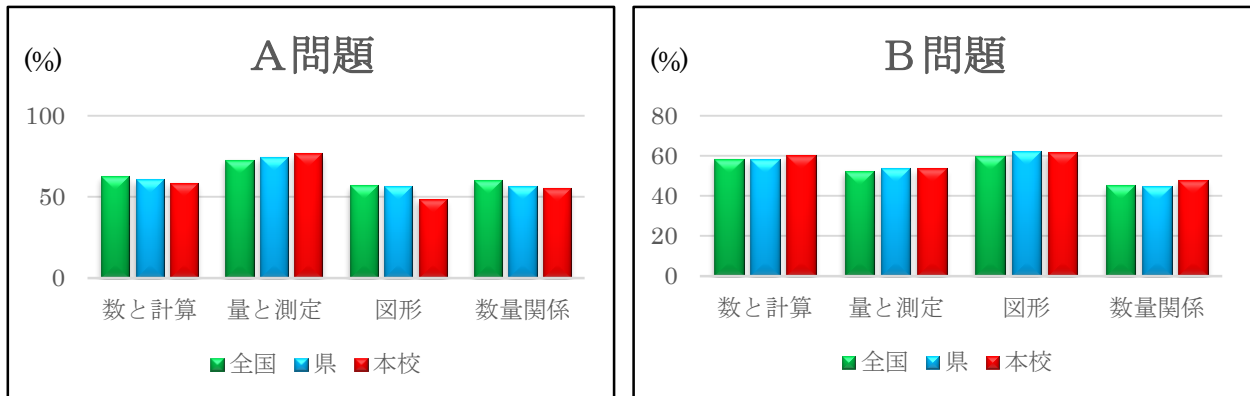
- 朝の時間には、読書タイム（読み聞かせ）を行い、本に親しませる時間を確保しています。国語スキルタイムでは、漢字の書き取りや言葉についての課題に取り組みせ、基礎・基本の定着に努めています。
- 授業では、自分の考えを表現し伝え合う場を数多く設定し、人の意見と比べたり、参考にしたりして、自分の考えがより深まるような授業づくりを目指しています。
- 長期休業の後には、「富士っ子チャレンジ」を行い、合格点クリアを目指し、国語、算数の基礎・基本問題に挑戦させています。やり直しをしながら繰り返し取り組むことで基礎基本の定着を図っています。

【ご家庭では】

- 音読は国語学習の基本です。音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。どうぞ、お子さんの音読を聞いてください。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流しましょう。
- お子さんの教科書やノート（授業用、漢字）に目を通してください。学習の様子や漢字への取り組み状況が分かります。ていねいに書いている時には褒めてください。次への意欲につながります。

2 算数

(1) 結果



全体としてはA問題、B問題とも全国平均を上回りました。領域別に見ても、A問題の「図形」以外は、全国平均を上回っています。

(2) 成果と課題

【数と計算】

・ほとんどの問題で正答率が全国平均を上回っています。しかし、A問題では「針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く」問題で、全国正答率62.3%に対して、本校正答率は46.2%でした。B問題では、「横に並んでいる7つの数について示された表現方法を適用して書く」問題が、全国正答率59.5%に対して本校正答率53.8%でした。除法で表すことができる2つの数量の関係を理解したり、示された考えを解釈し条件を変更して考察した数量関係を記述したりできる力を伸ばしていきます。

【量と測定】

・ほとんどの問題で正答率が全国平均と同等、もしくは上回っています。B問題では「1つの点の周りに集まった角の大きさの和が360度になっていることを、着目した図形とその大きさを基に書く」問題で、全校正答率を2ポイント下回り、本校正答率が46.2%でした。「学びタイム」等で復習をしています。

【図形】

・A問題の「円周率を求める式として正しいものを選ぶ」問題で、全校平均正答率41.6%に対して本校正答率は15.4%と下回りました。今後、円周率の意味を理解したり活用したりする問題に触れさせていきます。

【数量関係】

・A問題の「200人の内80人が小学生の時、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ」問題で、全国正答率52.9%に対して本校正答率は38.5%でした。百分率の基礎・基本となる場所ですので、適宜復習をしていきたいと考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

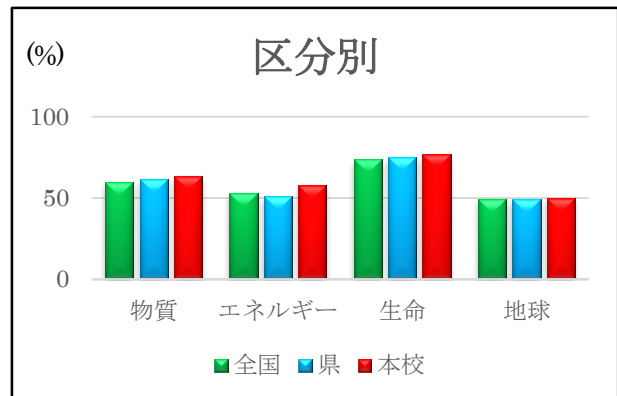
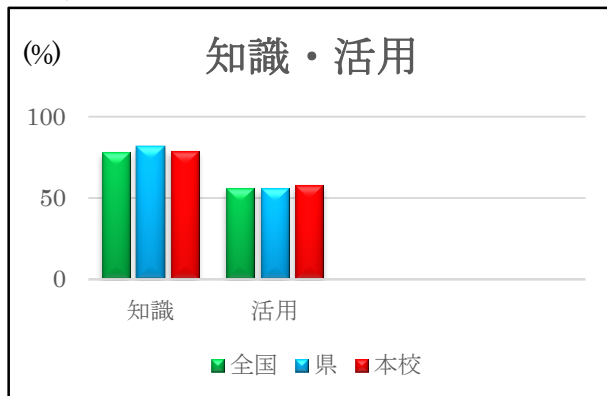
- 朝のスキルタイムの時には、基礎・基本の課題に取り組みさせています。また、毎月1回昼の時間に「まなびタイム」を設定し、級外職員も加わり、応用・活用問題にも取り組みさせています。
- 授業では、自力解決の後に、自分の考えを述べ、他の人の意見を聞いて考えをまとめ、発表する活動（伝え合う活動）を通して表現力の育成に努めています。
- 課題提示の時や具体的操作をしながら学習を進める時には、電子黒板を効果的に使い、分かりやすい授業作りに努めています。

【ご家庭では】

- お父さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか把握するためにも、ドリルやプリント等の宿題、テストに目を通しましょう。そして、励ましたり、褒めたりしてください。
- 算数好きにするには、習ったことが生活の中で使えて、「便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。生活の中で「おかし数えでかけ算」「おかし分けて割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」などに取り組みみてはいかがでしょうか。身の回りには算数を使えるものが意外とあります。

3 理科

(1) 結果



基礎的な知識を問う問題も活用力を問う問題でもA区分（物質・エネルギー）、B区分（生命・地球）ともに全国平均を上回っている。

(2) 成果と課題

【A区分（物質・エネルギー）】

・主として「活用」に関する問題の「回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ」問題では、全国正答率 47.7%に対して本校正答率 38.5%でした。電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる力を身に付けさせます。

【B区分（生命・地球）】

・主として「活用」に関する問題の「人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ」問題では、全国正答率 56.6%に対して本校正答率 46.2%でした。人の腕が曲がる仕組みを模型に適用させながら、理解を促したいと考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験や観察を充実させ、環境の整備を推進します。
- 理科の学習で問題解決を通して明らかになったことを日常生活に当てはめて考えるようにします。学習で学んだことと実生活との関連を図ることを目指します。
- 授業では、「変える条件」と「変えない条件」に分けるなど条件を整理して実験を計画できるようにします。また、実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。

【ご家庭では】

- 子どもが理科的なことに興味・関心を持ったときに、それにつきあったり、理解を示したりする大人や家族がいることは、理科好きな子に育つことにつながります。お子さんが科学や自然について疑問を持ち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひお子さんといっしょに考えたり、調べたりしてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

全国より優れる○, 全国より劣る△

調査項目	本校% (昨年)	全国 %	比較
毎日、同じくらいの時刻に起きる。(どちらかといえばしているも含む)	100 (100)	88.8	○
毎日、同じくらいの時刻に寝る。(どちらかといえばしているも含む)	100 (83.4)	77.0	○
朝食を毎日食べていますか。(どちらかといえばしているも含む)	100 (100)	94.5	○
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。	69.3 (—)	86.2	△
平日読書を30分以上している。	61.6 (33.4)	41.1	○
平日読書は全くしない～10分未満。	7.7 (22.3)	33.6	

- 起床、就寝時刻については、ほぼ同じ時間帯に行うことができているようです。その時間帯ができる限り、早ね・早起きになるように学校でも指導を続けているところです。朝食については全ての子どもたちが、きちんと食べることができています。今後とも「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が確立するよう、ご家庭の協力をよろしくお願いします。
- 全国に比べて、テレビのニュース番組やインターネットのニュースをあまり見ていない児童が多いという結果になりました。授業等でも時事問題に興味をもてるよう工夫をしますが、ご家庭でも話題にしてください。
- 読書については、社会体育クラブの練習や習い事等忙しい中でも、何とか時間を確保できている方だと考えます。休み時間はよく図書館に通って本を借りる姿を見かけます。

《家庭学習について》

全国より優れる○, 全国より劣る△

調査の項目	本校% (昨年)	全国%	比較
平日2時間以上勉強している。	23.1 (27.8)	29.3	△
平日1～2時間勉強している。	30.8 (27.8)	36.9	
平日0～1時間勉強している。	46.2 (44.4)	33.7	
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしている含む)	100 (94.5)	97.1	◎
家で、授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしている含む)	92.3 (—)	62.6	◎
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	92.3 (—)	67.6	◎

- 学習時間は、平日2時間以上と答えている児童の割合が23.1%、逆に1時間未満と答えている児童の割合が46.2%となっており、2極化していることが伺えます。連絡ファイルやすこやかチェックなどを通して家庭と連携しながら、家庭学習の充実を目指します。
- 家庭学習では、「宿題」「予習・復習」「自分で計画」等とてもがんばっている様子が伺えます。家庭学習については今後中学校につながるよう指導をしていきたいと考えます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出しています。自主学习（自学）についても、お手本になる自学ノートを掲示する等して意欲を喚起しています。
- ボランティアによる読み聞かせ、読書ソムリエ（目標の冊数に到達すると校長からシールをもらえる）などの読書の機会を増やす取り組みを行っています。また、多読者を図書室前に掲示したり、学期末には集会の中で紹介し褒めたりして意欲づけをしています。
- 学期ごとにすこやかチェックを実施し、ご家庭と協力して基本的な生活習慣の定着を目指します。

【ご家庭では】

- 定期的にお子さんの学習用具（教科書、ノート、筆箱）の様子をご覧ください。用具を通してお子さんの学習への取り組みの様子が分かることがあります。
- 規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）を送ることは、子どもの健やかな成長に欠かすことができないものですし、学力を身に付けるためにも必要不可欠です。「すこやか週間」の時には、起床時刻、就寝時刻、学習時間、テレビやゲームの時間を見直し、その改善について親子で話し合ってみてください。

